

有恒会は120周年を迎えるました

大阪市立大学のルーツである大阪商業講習所は、明治13年（一八八〇）11月に五代友厚をはじめ当時の大阪財界有力者16名によって創設された。創立員がそれぞれ50円以上を出資しました。10年後の明治23年（一八九〇）5月23日に大阪府下在住の卒業生が会合して同窓会の設立を決議しています。10月には第一回の同窓会総会が開催されました。

昭和3年（一九二八）には日本最古の市立の大学として大阪商科大学が誕生している。大学への昇格は当時の関一大阪市長をはじめ同窓生、大阪市民の10年間に及ぶ熱心な昇格運動が結実し実現したものです。

大阪市立大学は昭和24年（一九四九）4月1日に大阪商科大学、大阪市立都島工業専門学校、大阪市立女子専門学校を母体として商、経、法文、理工、家政の五学部よりなる総合大学として創設された。さらに、昭和30年（一九五五）4月に市立医科大学を編入、医学部を設置した。昭和26年（一九五二）3月24日大阪商科大学高等商業部閉校、昭和28年（一九五三）に大阪商科大学は閉校となつた。

現在、大阪市立大学は8学部大学院10研究科の陣容を誇る日本最大規模の公立大学に発展しています。平成18年（二〇〇六）4月に公立大学法人が設置する大学となり新たな一步を踏み出しています。

昭和28年（一九五三）5月20日の同窓会定期総会において、商、経、法の卒業生も正会員にすることとし、大阪商科大学

同窓会を有恒会と改称しました。文学部同窓会は平成5年（一九九三）5月22日の有恒会定期総会で加入が決まりました。平成22年（二〇一〇）は、同窓会が誕生してから120周年を迎えていました。120年の間には多くの出来事がありました。同窓会設立以来の動きを年代順にまとめてみました。

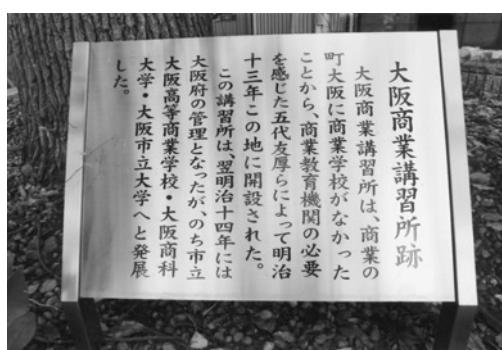
有恒会運営本部

平成22年6月

當講習所校舎修繕中ニ有之本月中旬ニ至リ開業可致都合ニ付即今左ノ場所ニ假事務所ヲ置候間入學志願ノ諸君本月五日ヨリ十五日マテ假事務所へ申込有之度候也
北久太郎町四丁目與亞分會内

商業講習所事務所

明治13年（一八八〇）10月3日（日）から6日にかけて大阪朝日新聞に掲載された商業講習所生徒募集広告。百名をこえる応募があった。
60名余りが入所した。



大阪商業講習所跡の碑（西区阿波座南公園）

△有恒会120年のおゆみ△ 年表

年次	月日	主 要 事 項
(明治一三〇) (一八八〇)	一一・一	五代友厚ほか十数氏、大阪商業講習所を立売堀北通三丁目（町会所跡）に開設
(一八八一) (一八八二)	九・一	府立大阪商業講習所、授業を開始
(一八八三) (一八八四)	三・一二	大阪商業講習所廃止され、府立大阪商業学校設立
(一八八五) (一八八六)	六・二三	堂島川渡辺橋・大江橋間に第一回水上運動会を開催（ボート祭の起源）
(一八八七) (一八八八)	一〇・一	府立大阪商業学校を市立大阪商業学校と改称
(一八八九) (一八九〇)	五・二三	大阪府下在住の大阪商業学校卒業生会合して同窓会の設立を決議。初代会長を名譽校長伊庭貞剛に、副会長を下野直太郎に嘱託
(一八九一) (一八九二)	一〇・一	同窓会、第一回総会を開催
(一八九三) (一八九四)	七・二八	同窓会機関誌「大阪商業学校同窓会雑誌」第一号を発行
(一八九五) (一八九六)	三・二〇	同窓会、明治二十五年春季総集会において同窓会規約を改正して会長は学校長に、副会長は教頭に嘱託
(一八九七) (一九〇一)	一〇・一五	堂島浜通二丁目の新校舎開校式
(一九〇二) (一九〇三)	一〇・二一	学校創立二十周年に当り第一回創立記念式を挙行
(一九〇四) (一九〇五)	一一・二六	以後この日を創立記念日と定める
(一九〇六) (一九〇七)	一〇・二八	市立大阪高等商業学校規則認可施行。校名を「市立大阪高等商業学校」と改称し、甲種商業学校を附設
(一九〇八) (一九〇九)	一一・二九	学内において第一回庭球大会を開催
(一九一〇) (一九一一)	一一・三〇	第一回剣道部演武会を開催
(一九一二) (一九一三)	一一・三一	中之島公会堂において校歌制定披露会を盛大に開催



創立員伊庭貞剛 第二代住友総理事
企業の社会的責任の先駆者
初代同窓会長



立売堀における創立当時の大阪商業講習所校舎（旧町会所跡）



創立員代表五代友厚

(一九〇九) 四二	七・三一	「北の大」により堂島校舎全焼 高商、江戸堀仮校舎（西区江戸堀南通三、元・西区第二高等小学校）に移転
(一九一〇) 四三	九・三	学校創立三十周年記念式
(一九一一) 四四	一・一五	同窓会京都支部発会式挙行（東洋亭）
(一九一二) 四五	一・一八	卒業生岩本栄之助（明二十七）、中央公会堂建設基金として、百万円を大阪市に寄付申しあれ
(一九一三) 五六	四・二〇	鳥力辻新校舎新築落成式・祝典
(一九一四) 五六	六・一〇	卒業生岩本栄之助（明二十七）、中央公会堂建設基金として、百万円を大阪市に寄付申しあれ
(一九一五) 五六	一二・七	学校改正規則を公布。附属甲種商業科を廃止
(一九一六) 五六	一二・三一	校友会および同窓会並びに市立大阪甲種商業学校校友会および同窓会、連合して桃峯会を組織
(一九一七) 五六	一〇・一	同窓会、大正四年度第一回常務委員会において、委員長・副委員長を互選の結果、初代委員長に飯尾一二（明二〇）、初代副委員長に横尾孝之亮（明二三）がそれぞれ當選就任
(一九一八) 五六	五・二二	同窓会委員長交替。飯尾一二（明二〇）に代わって喜多又藏（明二七）が就任（第一二代）
(一九一九) 五六	一一・一七	校名を「大阪市立高等商業学校」と改称。生徒定員を六百名に増加
(一九二〇) 五六	一二・一五	学校創立四十周年記念式
(一九二一) 五六	一二・一八	同窓会において大学昇格実行委員三十名を委嘱
(一九二二) 五六	一二・一八	卒業生有志により社交機関有恒俱楽部創立総会開催（代表理事）喜多又藏（明二七・同窓会会长）（設置場所）大阪市東区備後町二丁目二 野村ビル内
(一九二三) 五六	一二・一	野村徳七（明二六）の寄付金百万円を市会の議決を経て收受
(一九二四) 五六	一〇・一	大阪市中央公会堂完成（第一二代）
(一九二五) 五六	九・一	校名を「大阪市立高等商業学校」と改称。生徒定員を六百名に増加
(一九二六) 五六	一・一	学校創立四十周年記念式
(一九二七) 五六	一・一	同窓会において大学昇格実行委員三十名を委嘱
(一九二八) 五六	三・一六	卒業生有志により社交機関有恒俱楽部創立総会開催（代表理事）喜多又藏（明二七・同窓会会长）（設置場所）大阪市東区備後町二丁目二 野村ビル内
(一九二九) 五六	三・三一	野村徳七（明二六）の寄付金百万円を市会の議決を経て收受
(一九三〇) 五六	四・一	大阪商科大学学則を制定、四月一日施行
(一九三一) 五六	八・一	大阪商科大学高商部学則を制定、四月一日施行
(一九三二) 五六	八・一	大阪商科大学予科を開設
(一九三三) 五六	八・一	経済研究所、大学内の仮事務所において創設事務を開始
(一九三四) 五六	八・一	大阪市の決議により住吉区杉本町に大学新築移転の件確定

創立35周年記念ボートレー
ス（堂島川・大江橋上流）
大正3年9月



明治44年落成の市立大阪
高等商業学校（南区天王寺）
全景



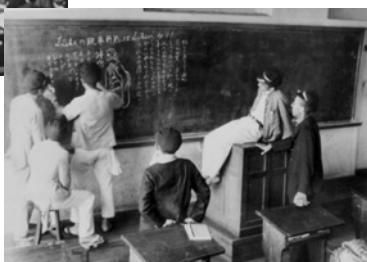
(一九四一)	三・一	大阪商科大学高商部第一回卒業式
(一九四二)	四・一	大阪商科大学入学式を举行
(一九四三)	五・一七	同窓会委員長交替。喜多又藏（明二七）に代わって横尾孝之亮（明二二）が就任
(一九四四)	五・一七	同窓会東京支部発足
(一九四五)	一・一五	「経済学辞典」（大阪商科大学経済研究所編・岩波書店）第一巻を刊行
(一九四六)	一・一五	「大阪商科大学創立五十周年記念論文集」を刊行
(一九四七)	一〇・二七	杉本町学舎の起工式
(一九四八)	一〇・二七	同窓会広島支部発足
一二・一	一・二・一	大阪商科大学部第一回卒業式
一二・一	六・一〇	「大阪商科大学経済年報」（大阪商科大学経済研究所編）を創刊（昭和十一年十二月第十号をもって廃刊）
一二・一	九・二	杉本町新校舎竣工
一二・一	九・二	滝川事件で退官した恒藤恭、末川博が商大講師となる
一二・一	七・二五	杉本町の新校舎への全移転完了（商大学部）
一二・一	五・二五	同窓会委員長交替。横尾孝之亮（明二二）に代わって村本福松（明四三）が就任（第一三代）
一二・一	一・一・四	大阪商科大学創立六十周年記念祝賀会
一二・一	五・一	同窓会池田支部発足
一二・一	五・二一	同窓会委員長交替。村本福松（明四三）に代わって佐々木国蔵（明二九）が就任（第一四代）
一二・一	八・二一	河田嗣郎学長死去（享年六十歳）。從三位に叙せられ、旭日重光章を賜わる
一二・一	三・一五	村本福松教授、学長兼高等商業部長事務取扱に就任
一二・一	四・一	本庄栄治郎学長の学長就任式
一二・一	四・一	商大事件おこる
一二・一	四・一	この前後同窓会会长交替。佐々木国蔵（明二九）に代わって杉山金太郎（明二七）が就任（第一五代）
一二・一	四・一	学徒徵兵おこなわれる



学部第一回卒業式 昭和7年



本館 昭和9年



教室風景 昭和17年

(一九四四)	一〇・七	一〇・一	四・一
(一九四五)	一〇・一	二・一	同窓会会长交替。杉山金太郎（明三七）に代わって加藤末雄（明四〇）が就任 (第一六代)
(一九四六)	一・二六	一・二六	米軍の進駐により杉本町学舎接収される
(一九四七)	一・二一	占領軍当局の立退命令により市内の小学校校舎等に分散移転	本庄栄治郎学長退職
(一九四八)	五・一	恒藤恭教授、学長に就任	恒藤恭教授、学長に就任
(一九四九)	一・一	大阪工業経営専門学校を大阪商科大学高等商業部に復帰改称	大阪市立大学設置の件、市会において議決 一七代)
(一九五〇)	二・二五	大阪市立大学創設事務取扱任命。総長恒藤恭（初代学長）、商学部長藤田敬三、 経済学部長福井孝治、法文学部長西原寛一、理工学部長小竹無二雄、家政学部長 茶珍俊夫	同窓会会长交替。加藤末雄（明四〇）に代わって伊藤晴一（明三八）が就任（第 一七代）
(一九五一)	四・一	大阪商科大学・大阪市立都島工業専門学校・大阪市立女子専門学校を母体として、 とくに自然科学系については新鋭研究者の多数の参加を得て、商学部・経済学部・ 法文学部・理工学部・家政学部の五学部よりなる総合大学としての大阪市立大学 を創設	大阪市立大学開学式
(一九五二)	六・一	大阪市立大学開学式	同窓会愛媛支部結成
(一九五三)	七・二五	同窓会愛媛支部結成	商・経・法文学部第2課程を第一部と改称
(一九五四)	九・一五	敬三教授が所長を兼任	大阪市経済研究所が移管され、大阪市立大学経済研究所となり、商学部長藤田 敬三教授が所長を兼任
(一九五五)	一・一三	伊藤晴一同窓会会长（明三八）、在任中死去	商・経・法文学部第2課程を第一部と改称
(一九五六)	一・一八	大阪商科大学高等商業部閉校式（輶校舎講堂）	大阪商科大学高等商業部閉校式（輶校舎講堂）
(一九五六)	三・二四	同窓会会长に潮崎喜八郎（明三七）が就任（第一八代）	同窓会、昭和26年度定期総会（有恒俱楽部）。同窓会として母校のため杉本町校 舎返還運動をおこすことを決議

大阪商科大学から大阪市立大学へ（杉本町学舎）
昭和28年



道仁校舎 昭和27年

(一九五二)	(一九五三)	(一九五四)	(一九五五)	(一九五六)	(一九五七)
八・一一 大阪商科大学閉学記念式を挙行（杉本町校舎講堂）	三・二八 法文学部を分離し、法学部と文学部を設置	五・二〇 「大阪商科大学同窓会」を「有恒会」と改称 「有恒」とは出典「孟子卷之二」 にある「曰、無恒產有恒心者。惟士為能。」すなわち、「恒產無くして恒心ある者 は惟士のみ能くするを為す」で「恒心有るもの集い」を意味したもの 北海道有恒会結成	八・二九 「大阪商科大学同窓会会報」を「有恒会報」と改称し、第一号を発行。 杉本町校舎の早期全面返還を目指して「杉本町校舎全面返還促進実行委員会」 （委員長恒藤恭学長）が結成され、運動を開始	九・二九 大阪市立医科大学を大阪市立大学に合併して医学部を設置	七・一〇 大阪市立医科大学を大阪市立大学に合併して医学部を設置 有恒会会长交替。潮崎喜八郎（明三七）に代わって森本寛三郎（大三）が就任 (第一九代)
五・一〇 杉本町の米軍接收校舎、全面返還成る 教養課程と医学進学課程との教育のため教養部を設置	四・一〇 杉本町の米軍接收校舎、全面返還成る 教養課程と医学進学課程との教育のため教養部を設置	九・一〇 杉本町の米軍接收校舎、全面返還成る 教養課程と医学進学課程との教育のため教養部を設置	四・一 杉本町の米軍接收校舎、全面返還成る 教養課程と医学進学課程との教育のため教養部を設置	四・一 杉本町の米軍接收校舎、全面返還成る 教養課程と医学進学課程との教育のため教養部を設置	五・一 杉本町の米軍接收校舎、全面返還成る 教養課程と医学進学課程との教育のため教養部を設置
五・二七 恒藤恭学長、任期満了により退職 細谷雄二医学部教授、学長に就任（第二代学長）	五・二五 有恒会岡山支部結成 恒藤恭学長、任期満了により退職 細谷雄二医学部教授、学長に就任（第二代学長）	五・二五 恒藤恭学長、任期満了により退職 細谷雄二医学部教授、学長に就任（第二代学長）	五・二五 恒藤恭学長、任期満了により退職 細谷雄二医学部教授、学長に就任（第二代学長）	五・二五 恒藤恭学長、任期満了により退職 細谷雄二医学部教授、学長に就任（第二代学長）	五・二五 恒藤恭学長、任期満了により退職 細谷雄二医学部教授、学長に就任（第二代学長）
一〇・一六 開高健（法文二八）「裸の王様」で第38回芥川賞を受賞	一〇・一五 有恒会和歌山県支部結成	一〇・一五 有恒会和歌山県支部結成	一〇・一五 有恒会和歌山県支部結成	一〇・一五 有恒会和歌山県支部結成	一〇・一五 有恒会和歌山県支部結成
二・二九 有恒会大阪北支部結成	二・二九 有恒会大阪北支部結成	二・二九 有恒会大阪北支部結成	二・二九 有恒会大阪北支部結成	二・二九 有恒会大阪北支部結成	二・二九 有恒会大阪北支部結成



アルバイト斡旋全景 昭和31年



アメリカ軍ゲート 昭和29年

杉本町全面返還式（中馬助役 恒藤学長）
昭和30年

(一九五九年)	三・三一 理工学部廃止（文部省認可）
一九六〇年	四・一 理学部および工学部を設置（文部省認可）
一九六一年	六・三 大阪市立大学創立十周年記念式を挙行
一九六二年	二・二〇 杉本町文科系研究室建設工事の起工式を挙行
一九六三年	一・一三 細谷雄二学長任期満了により退任
一九六四年	一・一五 福井孝治経済学部教授、学長に就任（第三代学長）
一九六五年	一・一六 「大阪市立大学十年の歩み」刊行
一九六六年	一・一七 大阪市立大学山岳会ヒマラヤ遠征隊派遣計画を決定（本年は市立大学山岳部創立四十周年にあたるので、これを記念して来春ランタン・ヒマール地域に遠征隊を派遣することとしたもの）
一九六七年	一・一八 有恒会、創立七十周年記念祝賀大会を開催。当日、有恒会の長老杉山金太郎（明二七・元同窓会会长・有恒会相談役・豊年製油株会長）から大阪市立大学施設整備にあてるため一千万円の寄付の申し出あり
一九六八年	一・一九 有恒会、「有恒会七十年の歩み」（有恒会創立七十周年記念誌）を発行
一九六九年	一・二〇 有恒会山陰支部発足
一九七〇年	一・二一 大阪市立大学ヒマラヤ遠征隊遭難。隊長森本嘉一（学昭一六後）、隊員大島健司（経三二）、シェルバ一人死去。このため同隊は登頂を断念
一九七一年	一・二二 理学部新学舎第一期工事の完成により、その一部が扇町学舎から杉本町学舎へ移転
一九七二年	一・二三 学生ホール（教養地区）の完成
一九七三年	一・二四 大阪南有恒会結成
一九七四年	一・二五 大阪市立大学体育会後援会創立総会開催（有恒俱楽部）
一九七五年	一・二六 同後援会規約が決議され、委員長に有恒会会长小島昌太郎が就任
一九七六年	一・二七 大阪市立大学佐渡島奨学会を設立および同窓会則を制定、故佐渡島英禄（明三八本・昭三六・三・二一死去）の遺志により、遺族佐渡島イマの寄付にもとづき設立されたもの
一九七七年	一・二八 大阪市立大学の学章を制定（大阪市告示第三八号）（「大学」の文字の下にマーキュリーの羽と、その下にみおつくしの記号を配したもの）
一九七八年	一・二九 大阪商科大学を廃止（教授会組織）
一九七九年	一・三〇 財団法人有恒会設立（東京）



昭和35年卒業式（杉本町学舎講堂）



図書館閲覧室 昭和36年



大阪商科大学 大阪市立大学創立時代
昭和27年

(一九六三)	一〇・一五	四・一	有恒会岡山支部再開 福井孝治学長、任期満了により定年退職
(一九六四)	一〇・一六	一〇・一六	渡瀬讓理学部教授、学長に就任（第四代学長）
(一九六五)	三・一七	三・一七	大阪市立大学山岳会第二次ヒマラヤ遠征隊出発（ランタン・リルン登攀のため）
(一九六六)	三・二五	三・二五	市立大学当局、各同窓会代表との連絡会議を開催し、大学後援会の設立についての協力を要請
(一九六七)	五・二八	五・二八	大阪市立大学後援会設立のための出捐金一千万円を計上した予算案市会本会議にて可決
(一九六八)	一一・一二	一一・一二	有恒会会长小島昌太郎（明四一）、会長を辞任。駒村資正（大四）が会長に就任（第二二代）
(一九六九)	一・二七	一・二七	大阪市立大学後援会設立発起人総会が有恒俱楽部で開催され、後援会の設立が決定
(一九七〇)	四・二七	四・二七	財団法人大阪市立大学後援会の設立が文部大臣から許可
(一九七一)	六・一六	六・一六	大阪市立大学同窓会連合会結成（大阪証券会館）。市立大学の各同窓会並びに同窓生相互の連けいを密にするとともに、大学との連絡をはかることを目的として結成されたもの
(一九七二)	七・二四	七・二四	名譽会長 学長 渡瀬 譲
(一九七三)	八・二四	八・二四	会長 有恒会会長 駒村 資正
(一九七四)	九・一六	九・一六	副会長 同 副会長 藤岡 忠雄
(一九七五)	一・二七	一・二七	医学部同窓会会长 大浦 敏明
(一九七六)	一・二八	一・二八	有恒会、昭和40年度定期総会（阪神百貨店7階）出席者五八〇人の記録をつくる
(一九七七)	一・二九	一・二九	有恒会報充実をはかるため会報編集委員会設置
(一九七八)	一・三〇	一・三〇	渡瀬讓教授、学長に就任（学長改選の結果再任されたもの）
(一九七九)	一・三一	一・三一	大阪市立大学名譽教授恒藤恭、文化功労者として表彰される



第4代学長 渡瀬譲
昭和38年10月



本館と文系研究室 昭和39年



初代学長 恒藤恭

(一九六七)	四二	五・一・一	有恒会長老会員田中吉太郎（明一九・大阪市立大学後援会理事）から南区東櫻町の土地約一、五六八平方メートルを大阪市立大学施設建設資金として寄付する旨大阪市に申し出あり。大学としてその好意を受ける
(一九六八)	四三	五・二・四	恒藤恭初代学長の大学葬（大阪市立大学講堂）
(一九六九)	四四	一一・二・五	有恒会北陸支部結成
(一九七〇)	四五	八・二・二	
(一九七一)	四五	一・	家政学部新学舎の竣工（昭和四十三年十月十五日）により家政学部は白鬚橋旧學舎から杉本町新学舎に移転し、医学部を除く全学部等の杉本町への統合が終結
(一九七二)	四五	三・二・四	大阪市立大学本館封鎖、このため当日予定していた全学卒業式を中止し、各学部ごとに卒業証書を授与
(一九七三)	四五	四・一	「大阪市立大学原子力調査研究室」を「大阪市立大学原子力基礎研究所」と改称
(一九七四)	四五	九・一	大阪市立大学後援会から体育館兼講堂（八月二十五日竣工）を大阪市に寄贈（鉄筋コンクリート造二階建、総工費約一億八千万円）
(一九七五)	四五	一〇・一	渡瀬讓教授、学長に就任（学長改選の結果三選）
(一九七六)	四五	一〇・二・三	駒村資正有恒会会長（大四）在任中死去（享年七十五歳）
(一九七七)	四五	五・二・七	有恒会会长に猪崎久太郎（大一〇）が就任（第三二代）
(一九七八)	四六	七・一	なお、同副会長に村井八郎（大一四）、瀬川美能留（高昭四）、藤岡忠雄（学昭七）、藤本元次郎（学昭九）（以上四氏は重任）、安田博（学昭一二）が就任
(一九七九)	四七	一一・一	ニューヨーク有恒会結成
(一九八〇)	四九	一一・一	有恒会、創立八十周年（母校九十周年）記念祝賀大会を開催（母校市立大学杉本町学舎）
(一九八一)	四一	一一・一	森川晃卿文学部教授、学長に就任（第五代学長）
(一九八二)	四一	一一・一	有恒会香川県支部結成
(一九八三)	三四	一一・一	経済学部・経済研究所棟と文科系大教室完工、経済研究所内に野村記念室を設置
(一九八四)	三四	一一・一	大阪市立大学第一回「市民講座」（テーマ・大都市をめぐる諸問題）を開催
(一九八五)	四五	一一・一	田中記念館完工
家政学部を生活科学部、同大学院を生活科学研究科と改称し、同時に博士課程を開設（これにより全研究科に博士課程を開設）			

本館封鎖解除 昭和44年

渡瀬学長封鎖解除後の会見
昭和44年

御堂筋大行進へ出発 昭和43年

(一九七八)	五一	四・二六	有恒会、烏カ辻旧学舎跡（現大阪通信病院内）に「大阪市立高等商業学校・大阪商科大学跡」記念碑を建設し、除幕式
(一九七九)	五三	五・一五	有恒会事務室 田中記念館2階に移転
(一九八〇)	五二	五・一九	田中記念館開館式
(一九八一)	五一	八・一一	商学部棟完工（内部に「大阪商科大学記念室」を設置）
(一九八二)	五四	六・五	定期総会開催（田中記念館）猪崎久太郎会長退任、平井常次郎（本大八・研大一） ○新会長を選任（第二三代）
(一九八三)	五七	一〇・六	有恒会宝塚支部結成
(一九八四)	一〇・一	一〇・二四	大阪阪南支部発足
(一九八五)	一〇・一	一〇・二四	大阪市立大学山岳会第三次ヒマラヤ遠征隊・ランタン・リルン（七二四六米）初登頂に成功
(一九八六)	一〇・一	一〇・二四	本学伝統のボート祭（第八十八回）、大川に復帰
(一九八七)	一〇・一	一〇・二四	大阪市立大学創立百周年（第八十九回）ボート祭
(一九八八)	一〇・一	一〇・二四	有恒会創立九十周年祝賀大会ならびに定期総会開催（田中記念館）494名参加
(一九八九)	一〇・一	一〇・二四	木村英一医学部教授、学長に就任（第六代学長）
(一九九〇)	一〇・一	一〇・二四	瀬川美能留野村證券取締役・相談役（高昭四）、本学証券関係講座の充実および学術奨励のための資金として三億円相当の有価証券を明年一月に寄付する旨の目録を、大阪市長に手交
(一九九一)	一〇・一	一〇・二四	有恒会サンパウロ支部発足
(一九九二)	一〇・一	一〇・二四	大阪市立大学都市問題資料センター竣工祝賀式
(一九九三)	一〇・一	一〇・二四	京都支部創立七十周年記念祝賀会
(一九九四)	一〇・一	一〇・二四	大阪市立大学百周年記念式典を挙行（ホテルプラザ）
(一九九五)	一〇・一	一〇・二四	証券研究センター設置（瀬川基金による）
(一九九六)	一〇・一	一〇・二四	神戸有恒会創立七十周年記念総会
(一九九七)	一〇・一	一〇・二四	大阪市立大学文化交流センター（大阪駅前第三ビル、一六・一七階）開設
(一九九八)	一〇・一	一〇・二四	有恒会事務局長佐々木勇が退職し大西保正（学昭一四）が就任 「大阪市立大学百年史・部局編」刊行



田中記念館

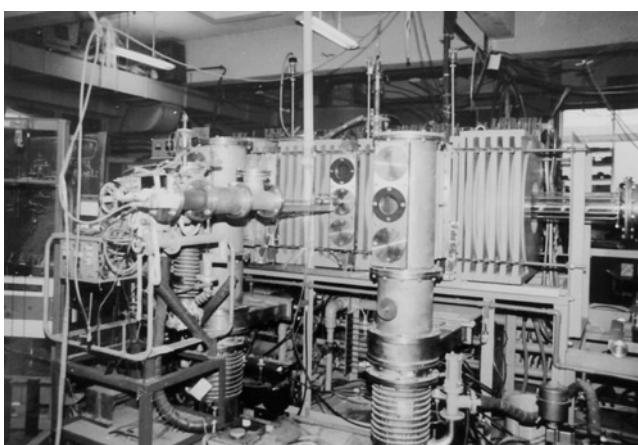


ランタン・リルン初登頂に成功
昭和53年10月24日



文化交流センター

(一九九四)	(一九八五)	(一九八六)	(一九八七)	(一九八八)	(一九八九)	(一九九〇)	(一九九一)	(一九九二)	(一九九三)	(一九九四)	(一九九五)	(一九九六)	(一九九七)	(一九九八)	(一九九九)	(一九九〇)	(一九九一)	(一九九二)	(一九九三)	(一九九四)	(一九九五)																									
メルボルン有恒会結成	東北有恒会結成	有恒会山口支部結成	有恒会創立95周年記念祝賀会（新阪急ホテル）	木村英一学長の任期満了	崎山耕作（経済学研究所）教授、学長に就任（第七代学長）	崎山学長、公立大学協会会长に選出、就任	「市大広報」創刊	臨時総会（有恒俱楽部）。平井常次郎会長辞任。村井八郎（本大一四）会長選任（第二四代）	「大阪市立大学百年史・全学編」刊行	愛知支部発足	定期総会開催（大和銀行講堂、有恒俱楽部）。村井八郎会長退任。池田一郎（学昭一五）会長（第二五代）を選任。副会長三人欠員につき吉村茂夫（学昭一六後）、清水貞保（学昭一九）、井上太一（学昭二二）の三会員を選任	学長選挙、崎山学長再選	原子力基礎研究所廃止	有恒会福山支部結成	九〇〇年度大学入試センター学力試験（第一回）を実施	O C U S A 設立総会開催	有恒会、創立百周年記念事業「有恒会百年史」を発行	有恒会創立百周年記念モニュメント除幕式	山本研二郎教授、学長に就任（第八代学長）	近畿大学野球連盟秋季リーグ戦にて硬式野球部初優勝	ボート祭第百回記念大会開催	有恒会一〇〇周年記念事業「有恒会百年史」を発行	百周年記念募金 五千二百三十八人 金額一億一千四百五十一万円	一〇・一二五 九・一〇 四・一 九・一 〇・二二	一・二五 九・八 一・一四 三・三一	春 一・一三 一・一四	二・二〇 三・三一	五・二八 一・一四	六三 一・一三 一・一四	平成元 一九八九	一九八八 一九八九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九
メルボルン有恒会結成	東北有恒会結成	有恒会山口支部結成	有恒会創立95周年記念祝賀会（新阪急ホテル）	木村英一学長の任期満了	崎山耕作（経済学研究所）教授、学長に就任（第七代学長）	崎山学長、公立大学協会会长に選出、就任	「市大広報」創刊	臨時総会（有恒俱楽部）。平井常次郎会長辞任。村井八郎（本大一四）会長選任（第二四代）	「大阪市立大学百年史・全学編」刊行	愛知支部発足	定期総会開催（大和銀行講堂、有恒俱楽部）。村井八郎会長退任。池田一郎（学昭一五）会長（第二五代）を選任。副会長三人欠員につき吉村茂夫（学昭一六後）、清水貞保（学昭一九）、井上太一（学昭二二）の三会員を選任	学長選挙、崎山学長再選	原子力基礎研究所廃止	有恒会福山支部結成	九〇〇年度大学入試センター学力試験（第一回）を実施	O C U S A 設立総会開催	有恒会、創立百周年記念事業「有恒会百年史」を発行	有恒会創立百周年記念モニュメント除幕式	山本研二郎教授、学長に就任（第八代学長）	近畿大学野球連盟秋季リーグ戦にて硬式野球部初優勝	ボート祭第百回記念大会開催	有恒会一〇〇周年記念事業「有恒会百年史」を発行	百周年記念募金 五千二百三十八人 金額一億一千四百五十一万円	一〇・一二五 九・一〇 四・一 九・一 〇・二二	一・二五 九・八 一・一四 三・三一	春 一・一三 一・一四	二・二〇 三・三一	五・二八 一・一四	六三 一・一三 一・一四	平成元 一九八九	一九八八 一九八九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九
メルボルン有恒会結成	東北有恒会結成	有恒会山口支部結成	有恒会創立95周年記念祝賀会（新阪急ホテル）	木村英一学長の任期満了	崎山耕作（経済学研究所）教授、学長に就任（第七代学長）	崎山学長、公立大学協会会长に選出、就任	「市大広報」創刊	臨時総会（有恒俱楽部）。平井常次郎会長辞任。村井八郎（本大一四）会長選任（第二四代）	「大阪市立大学百年史・全学編」刊行	愛知支部発足	定期総会開催（大和銀行講堂、有恒俱楽部）。村井八郎会長退任。池田一郎（学昭一五）会長（第二五代）を選任。副会長三人欠員につき吉村茂夫（学昭一六後）、清水貞保（学昭一九）、井上太一（学昭二二）の三会員を選任	学長選挙、崎山学長再選	原子力基礎研究所廃止	有恒会福山支部結成	九〇〇年度大学入試センター学力試験（第一回）を実施	O C U S A 設立総会開催	有恒会、創立百周年記念事業「有恒会百年史」を発行	有恒会創立百周年記念モニュメント除幕式	山本研二郎教授、学長に就任（第八代学長）	近畿大学野球連盟秋季リーグ戦にて硬式野球部初優勝	ボート祭第百回記念大会開催	有恒会一〇〇周年記念事業「有恒会百年史」を発行	百周年記念募金 五千二百三十八人 金額一億一千四百五十一万円	一〇・一二五 九・一〇 四・一 九・一 〇・二二	一・二五 九・八 一・一四 三・三一	春 一・一三 一・一四	二・二〇 三・三一	五・二八 一・一四	六三 一・一三 一・一四	平成元 一九八九	一九八八 一九八九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九	一九九〇 一九九一	一九九二 一九九三	一九九四 一九九五	一九九六 一九九七	一九九八 一九九九



原子核融合装置



ボートレース 河岸の
ラス応援（桜の宮）



ボートレース
ム 昭和6年

(一九九三) 五・二二	文学部卒業生「有恒会」に入会
(一九九四) 六・五	法学部創立四十周年記念事業開催
(一九九五) 一・二〇	文学部創立四十周年記念事業開催
(一九九六) 三・一	有恒会台北支部結成
(一九九七) 三・一	シンガポール有恒会結成
(一九九八) 二・三一	「大阪市大新聞史」発刊
(一九九九) 二・三一	事務局長交替、大西保正が退職し奥村晃一（商昭二八）が就任
(一九九〇) 二・三一	「有恒会報」戦後五十年特集記事を掲載
(一九九一) 二・三一	大阪市長選舉にて一代目市長として磯村隆文氏が当選
(一九九二) 二・三一	財団法人有恒会東京から大阪杉本町に事務所を移転
(一九九三) 五・二一	有恒会年会費五千円に改正
(一九九四) 五・二一	大阪市長選舉にて一代目市長として磯村隆文氏が當選
(一九九五) 二・二一	「有恒会報」戦後五十年特集記事を掲載
(一九九六) 二・二一	学術情報総合センター開設
(一九九七) 二・二一	学生向「有恒会報就職特集」
(一九九八) 二・二一	上海有恒会発足
(一九九九) 一・一八	商友会創立総会
(一九九〇) 一・一八	経友会創立総会
(一九九一) 一・一八	桜植裁募金開始
(一九九二) 一・一八	児玉隆夫理学部教授、学長に就任（第九代学長）
(一九九三) 五・一五	定期総会吉村茂夫会長、谷信和、藤原富男、重田久理子、葛原寛、各副会長および奥中克治、三輪明良両監事が退任し、会長藤原富男、副会長に谷本貞一、松下忠男、阪口英一、畠田美智子、監事に阪口春男を選任
(一九九四) 六・一三	京都支部を京滋支部名称変更
(一九九五) 一・二三	桜植裁記念碑除幕式行われる
(一九九六) 一・二二	有恒会池田支部を同窓会北攝支部と改称
(一九九七) 一・二一	文化交流センター談話室の管理業務を有恒会が担当する
(一九九八) 一・二一	学徒出陣慰靈碑除幕式行われる



桜植樹記念碑



戦没学友の碑

(二〇〇一)	四・二〇	第一回ホームカミングデー開催。四五八人がなごやかに定期総会で会長阪口英一、副会長に河崎清、福岡美彦、美馬卓示、柘植宣男、堀龍児、監事に森本武、中川清、今川明、久保勇を選任
(二〇〇三)	五・二〇	有恒会事務局を運営本部に改組 本部長に福岡美彦が就任 創造都市研究科設置、大学教育研究センター設置 新産業創生研究センター設置
(二〇〇四)	一〇・一	第2回ホームカミングデー（杉本町キャンパス）
(二〇〇五)	一・三〇	市大新聞会OB会提供、講演会「宇宙から探したピラミッド」講師 堀田謹吾
(二〇〇六)	一・三〇	関淳一氏（医学部卒）が大阪市長に選出
(二〇〇七)	一・九	金児曉嗣文学部教授、学長に就任（第十代学長）
(二〇〇八)	一・三	法科大学院設置、医学部看護学科設置
一・一	四・一	第3回ホームカミングデー（杉本町キャンバス）
一・三	一・三	市大香説会出演
一・五	三・一三	経友会提供、経済学部創立五十五周年記念・講演会シンポジウム
一・七	五・二一	公立大学法人大阪市立大学定款が大阪市会で可決
一・八	一・九	学友会発起人会（大阪城ホール）
一・九	一・三	平成17年度定期総会（大阪国際交流センター）
一・三	一・三	第4回ホームカミングデー（杉本町キャンバス）
一・三	一・三	市大交響楽団OB会出演
一・三	一・三	市大新聞会OB会提供、講演会
一・三	一・三	「浮世絵の面白さ、他の絵と異なるところ」講師 中村暢時
一・三	一・三	開高健文学碑建立（北田辺）
一・三	一・三	学友会設立記念行事開催
一・三	一・三	公立大学法人大阪市立大学となる
一・三	一・三	都市研究プラザ設置
一・三	一・三	平成18年度定期総会（田中記念館）
一・三	一・三	高原記念館竣工 高原慶一朗（商二八）が百二十五年を記念して現物寄付を行う
一・三	一・三	第5回ホームカミングデー（杉本町キャンバス）
一・三	一・三	民族舞踏部フロイント出演



高原記念館



学術情報総合センター



開高 健

(一〇〇七)	英語教育開発センター設置
(一〇〇八)	第一回支部代表者会議（田中記念館）
(一〇〇九)	平成19年度定期総会（田中記念館）
一・三	市大交響楽団OB会出演
一・四	第1回「みんなで歌おう」
六・一四	第2回支部代表者会議（田中記念館）
八・一	平成20年度定期総会（田中記念館）
一〇・七	北京五輪で経済学部卒業生小林寛美さん（平一九卒）がシンクロナイズドスイミング日本代表で活躍
一一・三	南部陽一郎名誉教授がノーベル物理学賞受賞
二・一四	第7回ホームカミングデー（杉本町キャンパス）
三・一五	アカペラサークル Accord 出演
四・一六	経友会講演会・シンポジウム
五・一七	「ドイツ観念論における人権の基礎づけ」講師 中村健吾
六・一八	商友会講演会・シンポジウム
九・一九	「北京オリンピックを振り返って」講師 植田監督
一・二〇	「中国経済の展望と日本企業経営の関わりかた」講師 花井健
一・二一	法学部同窓会講演会「裁判員制度について」講師 山口健一
一・二二	市大新聞会OB会市大新聞発行六十周年記念行事
一・二三	第3回支部代表者会議（高原記念館）
二・一三	平成21年度定期総会（学術情報総合センター）
三・一三	第8回ホームカミングデー（杉本町キャンバス）
四・一四	はばたけ夢基金募金開始
五・一五	はばたけ夢基金募金開始
六・一六	有恒会神戸支部再開
九・一七	経済学部創立六十周年記念シンポジウム開催
一・一八	同窓会北撮支部を北撮地区同窓会と改称
一・一九	劇団カオス出演
二・二〇	第2回「みんなで歌おう」



華やかに銀杏祭



ホームカミングデーに合せ同窓会も



ホームカミングデーにぎわう 杉本町キャンパスで

市立大学創設時の関市長談話

今や大阪市が市立商科大学を新たに開校せんとするに当つてよく考えねばならぬ事は単に専門学校の延長を以て甘んじてならぬ事勿論であるが又国立大学の「コピー」であつてもならぬ

固より大学と言う以上は単純なる職業教育だけでは満足が出来ぬ 学問の研究が中心であると共に その設立した都市並に市民の特質とその大学の内容とが密接なる関係を保つべきことを忘れてはならない 其設立都市の有機組織と其都市の市民生活の中に市立大学が織込まれなければならぬ

併し決して市民に迎合せよと言うのでもなければ早く間に合う卒業生を送出せよと願うのでもない若しそれだけの目的ならば専門学校で沢山である

市民の市立大学である以上 其の所在都市の文化 経済
社会事情に関する 独特の研究が遂げられて市民生活の
指導機関となつて行なねばならぬと思うのである

大阪市立大学は学問の受売 卸売の市場ではない
大阪市を背景とした学問の創出が無ければならない

此の學問の創造が学生 出身者 市民を通じて大坂の
文化 経済 社会生活の真髓となつて行く時に設立の意
義を全くするものである

昭和3年3月

昭和 3 年 3 月市立大学創設時の關市長談話

一、桜花爛漫月臘る
胡蝶の舞をしたいつづ
人や南柯に迷う時
雄飛の壯圖を胸にして
天に翔くる城南の
健児の意氣を君見ずや

大阪商科大學
大阪市立大學
逍遙歌

櫻花爛漫

三、
流転世人の夢の跡
栄枯の嵐絶えずして
その狂瀾に人泣け
千古変らぬ友の情う
悲喜難樂を共にして
鳥丘に集う我が健兒



二 閣 大阪市長

蚊龍破天の雲を得て
阿弘の氣合満つる時
秋水虚空に影すべく
一劍空に玉散れば
敵陣忽ち影もなく
天下に窺窬の仇あらど

(二) ○ 一 三 ○)	一一・三 四	文学部同窓会講演会「正岡子規—文学へのめざめ—」講師 村田正博 医学部創立六十周年記念シンポジウム開催
五・九	三・一三	第4回支部代表者会議
任	四・一	西澤良記 医学研究科長・医学部長、理事長（第二代）及び学長（第十一代）に就
第45回全国春歌祭、最終回となる	一一・三 四	

有恒会（昭和28年以前の同窓会含む）歴代会長

会長	就任期間	摘要
1 伊庭 貞剛	明治23年	副会長1名 ・明治23年～大正3年
2 板原 直吉	明治24年	〃 まで、校長が会長
3 成瀬 隆蔵	明治25年～27年	〃 (明治26年以降会頭)、
4 平沼 淑郎	明治28年～31年	〃 教頭が副会長（同年
5 加藤 彰康	明治32年～33年	〃 以降副会頭）を務め
6 平沼 淑郎	明治34年	〃 る
7 福島 本勝	明治35年	〃
8 福井 彦次郎	明治36年～41年	〃
9 加藤 彰康	明治42年～大正3年	〃
10 飯尾 一二	大正4年～6年	〃 ・大正4年以降同窓生
11 喜多 又蔵	大正7年～昭和3年	〃 が委員長副委員長を
12 横尾 孝之亮	昭和4年～9年	〃 務める（会頭・副会
13 村本 福松	昭和10年～15年	〃 頭の呼称変更)
14 佐々木 国蔵	昭和16年～17年	〃
15 杉山 金太郎	昭和18年	〃 ・昭和18年以降会頭を
16 加藤 末雄	昭和19年～22年	〃 会長に、副会頭を副
17 伊藤 晴一	昭和23年～25年	副会長2名 会長に呼称変更
18 潮崎 喜八郎	昭和26年～29年	〃 ・昭和28年会名を有恒
19 森本 寛三郎	昭和30年～31年	副会長3名 会に改称
20 小島 昌太郎	昭和32年～38年	〃
21 駒村 資正	昭和39年～44年	副会長5名
22 猪崎 久太郎	昭和45年～50年	〃
23 平井 常次郎	昭和51年～61年	副会長10名 会計監査2名(昭和53年より)
24 村井 八郎	昭和62年	副会長12名 会計監査2名
25 池田 一郎	昭和63年～平成7年	副会長10名(平成6年より12名) 監査5名(平成6年より名称変更し、監事5名)
26 吉村 茂夫	平成8年～12年	副会長10名(平成9年より13名) 監事4名(平成10年より5名)
27 藤原 富男	平成13年～14年	〃(〃) 〃(〃)
28 阪口 英一	平成15年～16年	副会長15名 監事7名
29 竹山 健二	平成16年～20年	副会長15名 監事7名
30 喜岡 浩二	平成20年～22年	副会長15名 監事7名